

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 5月号 (NO37)

2013年5月10日 (金) 発行 (毎月10日)

【農暦】藤の花が咲くと霜はないと云われている？

○5日は立夏と云うのに炬燵も片付けられないでいる。季節の感覚が整えられない。ジャガイモの新芽を霜でやられてしまい新たな芽がやっと出て来た所である。藤の花が咲くと霜はないと云われている。藤の花をあちらこちらで見かけるので遅霜の心配はなさそうである。2日は八十八夜であった。茶摘みの季節である。茶畑では扇風機で空気を攪拌させる事で霜対策している。家庭菜園ではトマト、ナスなどに四角の筒状で天井の覆いが無い通称「アンドン」と呼ばれている囲いをする事で霜よけをしている。気流のチョットした加減で霜は防げる。藤の花は同じ地域でも咲く時期は違う。地形や気流の条件などで藤の花の時季は変わる様だ。藤の花をたよりに出来るのはその場所だけに限られるのかもしれない。藤の花が咲いた所で霜を見た事はない。気候の推移を確り読んでいるのだと思う。自然摂理の下で人為が加わらない限り失敗しない？のだと思う。

○既に立夏も過ぎて“春眠暁を覚えず”の時季はとうに過ぎていく筈である。日差しは強くなって来ているが風は冷たく“温もりにまどろむ”季節感はない。春暁を詠んだ中国の唐時代の詩人の孟浩然もうこうねんがうらやましくなる。最近の気候は異常が状態化し変化が激しい。だが、新緑が山々を覆い日一日と緑を深めている。自然の営みはデリケートで、力強く、確かなものがある。

○ピッコロファームの温床で育てた調理用のトマトの苗は大きくなり過ぎていくが、「アンドン」を作るひと手間をズボラして、連休明けのこれからの定植と決めている。藤の花があちらこちらで咲いて来ているのもう心配はないと思うが、冷たい風と朝晩の冷え込みでは心配が皆無ではない様な気がしてくる。この連休には田や畑に人の姿が多い。田植えの準備する人に、田植えする人、夏野菜を植える準備する人に、植える人。なんとなく活気を感じる。私も、トマト、シトウ、茄子、ゴーヤなど定植したいと思う。サヤエンド



<藤の花>宝篋山のふもとで。

27日撮影



<草莓の花>宝篋山の山腹で群生。

27日撮影

ウもサヤをつけ始めた。真っ赤な二十日大根も間引きを兼ねてかじって食べた。なかなかの食感である。土色の畑もだんだんと緑色に変化していく。今の時季の農作業が一番たのしい。

【楽農】インゲン豆、落花生、大豆の播種など

<ハウス> ; 温床育苗のトマト、シシトウ、白茄子などの苗をピッコロファームメンバーに分配(G)。ヤーコン苗など発育中。

<畑 A> ; インゲン豆、落花生、大豆の播種。ワケギの植え替え。石灰散布(ホウレン草用)お茶の剪定刈り込み(G)、グリーンピース、インゲンなどの支柱立て(G)。

<畑 B> ; 農業資材の整理(G)、ニンニクの除草(G)

* トマト、ゴーヤの苗を「みどりの風」に出荷

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部(ピッコロファーム主催、25-26日)

・農作業は苗の分配から始め、グリーンピース、インゲンなどの支柱立てまで(前項の(G))を行った。懇親会は大阪へ引越すMさんの送別会も兼ねて行った。

○エコピア柏の生ゴミ堆肥化の講座(20日)

恒例の春の講座を柏リボン館で行う。家庭菜園をやっている人が多く、いつもと同じで熱心な質疑が行われた。

○その他 ;

高校のOB会(房総白浜のホテルで14-15日)、元会社OB会(19日)男の料理教室(26日)などに参加した。宝篋山に登る(27日)、大洗海岸へ(5日)などした。

【つぶやき=Tweet】“日本の農業の未来”は暗くはない！

○25日のグリーンジムの時にピッコロファームのメンバーが良い記事があったと週刊ダイヤモンド4月13日号を持って来て紹介してくれた。“実は強いぞ！日本の農業”が特集されていた。目次を見ると、プロローグ「農業は成長産業」と見つけたり、1、企業が生む付加価値、2、農業企業家が拓く3、都会にある潜在自給力、4、成長を抑制するJA(農協)、エピローグ TPP で農業を伸ばす、とある。目次に続く小目次を見ると(プロローグ)ひと目でわかる日本農業の現状・展望・TPP(写真右)、(1)規制緩和により3年で1000社超の企業参入(カゴメ、伊藤園、カルビー、ローソン、サイゼリヤなど)、(2)大規模化、効率化、複合化・・・独自戦略で突き進む、高齢者に代わって東京でも若手就農者が続々、



<日本の農業の現状と展望>
週刊ダイヤモンドから。

(3) 農家の指導付き農業体験農園が高める食料自給力、(4) 組織維持を優先、高米価にしがみつくとJA、(エピローグ) 減反廃止で消費者利益は増大しコメは競争力の高い商品になる。とある。小目次の文言を読むだけでもある程度内容が想像できる。興味深いものばかりである。

○“社員や職員の農業を楽しむ”の企画など農業の6次産業化などを手掛ける「えがおつなげ」代表(内閣府地域活性化伝道師?)の曾根原久司氏は「日本の農業の未来は、3つのあり方があると思う。1つ目は、規模の経済が発揮できる大規模農業。2つ目が、6次産業化や体験サービスなどを販売する付加価値型農業。3つ目が半農半Xのようなライフスタイル農業。この3つのカテゴリーをそれぞれ伸ばせば、日本の農業は再生し、トータルで10兆円産業になり得る。田舎には、放棄された農業の資源という宝の山がある」と誌面で述べている。私が考えて来たことに重なるものが多い。

○私は1つ目の大規模農業と2つ目と3つ目が一緒になった様なフードマイレージの短い、地産地消を促進する農業のあり方に未来があると考えて来たので、全く同感である。私の田舎暮らしの農的新生活は、年金併用のプチ農家のライフスタイルを標榜して、その実践者として自らを位置付けて始めたのである。今は難しい所にあるが、初志はここにあった。

○引用を多用してしまったが、この紙面で全体を紹介するにはこれが最適と思ったので読みづらい点をご容赦願いたい。テレビや新聞など同様の内容のものがあったが、バックナンバーを書店で入手できたので購読をお薦めしたい。

“日本の農業の未来”は担い方次第で、決して暗くはない。

○最近、雀の姿を笠間でも柏でも見ない。と先月号で書いたが、ここ1-2週間の間に何度か見かけ安心した。簡単にはいなくなるもではないと思うが、私の思い過ごしであった様だ。ひと安心した。だが、無制限の安心は禁物である。絶滅危惧種にしてはならないのである。



<農的新生活の場・Kogure 農場>
芽吹き of 勢い増す。ブルーベリーの
花が咲く。17日に撮影

【後記】田圃一面に早苗が、みどりの絨毯の景色はまもなく到来です。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者 ; Kogure 農場・小暮虎雄

住所 ; 笠間市本戸4201-10

携帯電話 ; 090-9333-4135

メール ; torao-k@nifty.ne.jp

HP ; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>